

【会議要旨】遠浅小学校の統合に関する説明会（6/2, 4）

《1回目》

- 1 日時 令和3年6月2日（水） 18時30分～20時33分
- 2 場所 遠浅小学校 体育館
- 3 出席者 31名（保護者15名、学校3名、その他9名、町教委4名）

《2回目》

- 1 日時 令和3年6月4日（金） 18時30分～21時01分
- 2 場所 遠浅小学校 体育館
- 3 出席者 34名（保護者19名、学校2名、その他9名、町教委4名）

【主な意見・回答】 ※類似した意見、回答は併せて記載しています。

- 町教委 学校再編に関する考え方は、学校選択制（以下「選択制」と記載）を導入せず令和4年度末をもって早来地区の小学校・中学校4校を廃校し、4校を令和5年度早来地区に開校する義務教育学校に統合するという考え方を基本として進めている。選択制導入に関するアンケート調査の結果を踏まえ、施設一体型の義務教育学校に期待できる、教育上の効果を早来地区全ての児童生徒に差異なく提供する事ができること。また、他市町村の中学校を進学先と選択する場合を除いて遠浅小を卒業する児童の進学先は、早来中から移行する義務教育学校しかないこと。義務教育学校は1～9年生までの9年間を見通した小中一貫教育となる。普通の中学校1年生は「義務教育学校後期課程7年生」となる。普通の学校だと中学校1年生で入学式を行うが、義務教育学校では前期課程1年生で入学式を行い、卒業式は後期課程9年生に行う。中学1年生から義務教育学校に入る場合は、入学ではなく後期課程7年生に編入となる。令和5年度に合わせて入らない限り、令和6年度以降に入る場合、遅れによる人間関係の構築が上手くできないこと、抵抗感を感じるのではないかと懸念もあり、義務教育学校開校のタイミングで移った方が良いという考え方である。
- 保護者 R1年12月に実施した選択制に係るアンケートは無効となるのか？ アンケートの取り直しとかは無いのか。
- 町教委 アンケート結果で結論は出していない。アンケートの再実施は考えていない。統合のメリットを考え、子ども達により良い教育環境の場を与えるために統合がベストと考えた。
- 保護者 当初から統合するという事だったのか？選択制が実行されずに統合は納得がいかない。責任をもって選択制を実行してほしい。保護者は選択制が導入されるものと思っていた。
- 町教委 選択制については、学校再建の説明会で、新しい学校に行きたいという意見の中から「選択制が使えるのではないかと？」という意見があった。アンケートの結果から選択制を導入し運用を始めたら、現在の学校規模が維持できなくなる事が予想され、統合の協議へシフトした。
- 保護者 統合へシフトしたことは理解する。保護者に詳細が伝わっていないことで、統合の話が急に浮上した形となり保護者は戸惑っている。
- 町教委 100%が賛成・反対というのは無いと思う。これまでの説明会で頂いた意見を積み重ねて、選択制の導入より統合を進めた方が良いという判断。平成31年2月4日に遠浅小で説明会を開いてから、選択制に関する説明会は20回、遠浅地区では6回、合同開催を含めると10

回以上行ってきた。

- 保護者 遠浅の人達が新聞記事を見て統合を知ったという事を教育委員会はどう考えているか？
●町教委 ご指摘の通り情報の提供という部分で言うと、足りない部分はあったと思う。ただ、保護者の方々に案内文書を出す際に、文書の表題を変えてきたので、文書を見た場合に違う方向に進んでいることが理解して頂けるような表題に変えて文書を出してきた。また、これまでの話し合いの経緯についても触れる内容で書いてきた。そういう部分で、ある程度保護者の方々に理解して頂いていると思っていたが、新聞で知った事に対しては、反省すべき点があったのかと思っている。
- 保護者 いずれは統合になると思っていた。統合は保護者と地域で今後どうするか時間をかけて進めていくもの。もう少し様子を見て統合までの期間を延ばしてほしい。
●町教委 どこかで決断しなければならない。
- 保護者 最初の平成31年2月4日の説明会時に、早来小と遠浅小や安平小の教育格差ができないようにしますと話されていましたが？
●町教委 令和2年度から早来地区の早来小と早来中で小中一貫型小学校中学校を始めている。いずれは早来小、遠浅小、安平小の子ども達は早来中に進学するが、現状は遠浅小と安平小は小中一貫型小学校中学校に指定されていないため、既に差異が生じている。そのため、昨年度から遠浅小、安平小の子ども達も早来中に来て、一緒に体験的な授業を受けており、少しでも差異を無くす取組みをしている。ただ、早来中まで距離があり時間もかかるため、一体型の校舎で全ての子ども達が一緒に学ぶのが一番有効だと考えている。
- 保護者 追分でも小中一貫教育はスタートしてるんですか？
●町教委 追分は平成30年度から小中一貫型小学校中学校を校舎分離型で実施。次の年に抵抗感なく中学校へ通えるように、追分小6年生児童が毎週木曜日は追分中に登校して1日授業を受けている。
- 保護者 追分地区も一緒に町全体で小中学校という考えは無かったのか？ 安平地区に建てるのが良いのでは？
●町教委 仮に地理的な中心部の安平地区に建てた場合、ほとんどがスクールバス通学となる。
- 保護者 小規模校のデメリットとして複式学級の話があるがデメリットを感じた事は無く受け難い。
●町教委 相対的に受け止めて判断した結果と考えて頂きたい。
- 保護者 新しい学校へ移りたい人は移れるように選択制を導入すればよい。
●町教委 反対意見も含めて検討し、教育的効果など総合的に判断し統合が最も適切と思っている。
- 保護者 以前の説明で、選択制を行いスクールバスを出す事は町が閉校を後押しする形になる。だからスクールバスは出さないと説明があり、だから閉校はしないと認識していた。
●町教委 当初統合しない考えであった。新しい学校へ行きたい要望を可能とする選択制に、スクールバスを出した場合、スクールバスが出るなら新しい学校に行きたいとなり、それにより遠浅小の児童数が減ることによって、統合を助長することとなる。教育委員会がきちんと判断して、新しい学校にいく道をつくるべきという意見もあり、統合の方向へ検討することとなった。
- 保護者 仮に、8割ぐらいの人が遠浅小へ残りたいとなった場合も、閉校するのか？
●町教委 結果が6割だから統合する、4割だから統合しないという判断基準は定めていない。

- 保護者 教育だけが大事なのかなと思う？ 人を育てるのではなくて、ただ、学力の高い子を育てたいだけなのか？
- 町教委 そういう考えは全く無い。安平町は、家庭と地域の教育力が十分にある地域で、それが学力が高い1つの要因だと思う。小中一貫教育を取入れる一番の理由は、不登校が1人もいない学校にしたいと思うから。学力や体力なども大事ですが、1人も不登校の子どもがいない、皆が楽しみや何らかの目標を持って学校に通える町にしたい。
- 保護者 統合、閉校は、しっかりとした説明があり納得のいく答えを聞いたうえで、結論に至ると思う。教育委員会は、保護者の想いを受け止めてくれる姿勢は無いと思った。
- 町教委 そういった意見を十分検討した上でこの結果を出している。
- 保護者 どうして統合を急ぐのか？ なぜ、今このタイミングなのか？
- 町教委 統合は、義務教育学校ができるタイミング。そこが遅れる事で色々な教育効果が薄れる事を考えた上の判断。賛成の立場、反対の立場の両方いる上で、判断をしなければならないため、決して急いでいる訳ではない。教育委員の意見も聞き慎重に話を進め、回数を重ね、年月も費やして意見を伺ってきた。令和5年度の義務教育学校開校から逆算した時に、学校の人事異動を含めたスケジュールを考えると遅くても今年度の前半には決めなければならない。
- 保護者 人数が多くなると、不登校も多くなり、いじめも起こると思う。義務教育学校は9学年で1年生と9年生が関わるって事は無いのではないかと？
- 町教委 全国的な調査では、義務教育学校の場合、8・9年生（中学2・3年生）は非常に思いやりがあって落ち着いている。要因として、縦割りの活動で清掃の時に9年生から1年生と一緒に活動していることがある。
- 保護者 逆に、その時にいじめられる可能性もあるのではないですか？
- 町教委 可能性の話をしたらあり得ます。だから、全国の先進的に取り組みしている自治体のデータを客観的に見てる。
- 保護者 校舎の老朽化の話があったが、早来小学校より新しく、地震時も大きな被害は無かった。
- 町教委 単純な築年数の老朽化を問題にしてるのではなく、義務教育学校になった時の「教育的効果」の部分が一番大きいということ。
- 保護者 安平小は、地元の方が多と思うが、遠浅小は地域以外から来た方が多く、地域に魅力があるから住んでいる。
- 町教委 遠浅と安平の地域性の違いはある。安平小でも、他から安平地区へ小規模校だから選んで来た方もいて最初の説明会では反対していたが、今は理解を示している。その方は、何度も説明会へ参加して、教委側の説明を理解していただき新しい学校に対する意見も色々頂いた。地域に関わらず、考え方を変えていった方もいる。
- 保護者 仮に統合して義務教育学校になった場合、児童生徒数が増えるが、教員は小学校と中学校の免許両方持っている方というのを見たんですが、どれくらいの教員数を予定しているのか？
- 町教委 今の段階で具体的な人数は申し上げられない。国の条件として「原則、小中両方の免許を有している」とある。全国的な事例では、全ての義務教育学校に小学校と中学校両方の免許を持っている先生が配置されてはいない。また、教頭、養護教諭、事務職員ほか普通の学校より職員数が多い配置となる。

- 保護者 今回、突然だったのでびっくりした。保護者は新聞で知ったということが、反発や進め方にどうなのかというのが強くなった原因だと思う。統合のメリットも分かる。保護者にとっては衝撃が強く、すぐに判断できない。もう少し段階的に考えてもらいたい。餅つき大会とか親子の関りが、子ども達、保護者両方にメリットであった。教育面だけでなく、地域との関わりという事も聞いて欲しかったと思う。
- 町教委 小規模校は、先生方の目が行き届きやすく、子どもが主役になれる場面が多いという意味では小規模校の良さは否定していない。餅つき大会などは、遠浅小から追分小まで、学社融合事業の「ふるさと教育」として全ての小学校で田植えを行い、その後に田んぼの観察や収穫など一連の作業を行い、座学だけでは学べない事をたくさん学んでいる。この取り組みは、義務教育学校になっても安平町の財産として引き続き行っていきたい
- 保護者 私は遠浅小の卒業生で、当時の児童数は今の倍以上いた。早来中で一緒になるのは今と同じで馴染みずらさはあったが、1クラス30人の2クラスあり、徐々に馴染み仲良くやっていた。それは、小学校の時に年何回か他の小学校と合同事業で交流があったから。今は子ども園から一緒に、学童にも通っているので馴染みやすい。母校は閉校はしてほしくない。統合ではなく残してほしい。実際に説明会に行かなかった反省点もある。結局は説明会は統合に向けた話し合いでしかなく、説得をするだけの話し合いではないかというのを感じており、そこはどういう考えでやられたのか伺いたい？
- 町教委 町、教育委員会として選択制を導入するというのは1つの目標であった。町長が公約に掲げていた選択制の導入を前向きに捉えており、当初は「統合は全く考えていない、選択制導入に向けて検討している」と答弁してきた。しかし、令和元年12月に選択制に関するアンケート調査を行い、保護者の考えを把握した結果、安平小の場合、選択制を導入すると学校が自然消滅し、遠浅小は大幅な人数減少ではないが、現在の半分ぐらいの規模になるとされて、教育委員会の予想を超えるものであり、卒業後に同じ中学校に通う場合、教育効果が高いと期待できる学校に早いうちから通ってもらい、そこで多くの先生方の目で子ども達を見て育ててもらいたいという考えが、選択制導入より統合に向けた考えに変わった理由。
- 町教委 今回の統合を進めるに当たり、手順的に不十分だった所もあったのかも知れませんが。新聞でしか知らなかったという事であれば、そこは教育委員会もきちんと受け止めます。選択制を行わない決断は、残された学校のことも総合的に考えて説明している。その内容に少しでも耳を傾けて頂きたい。
- 町教委 双方納得いかない部分もあるかもしれないが、意見を聞かないということではない。皆様の意見はしっかりと理解している。然るべき時期が近づいていると感じている。十分な時間を費やし意見を伺ってきた。この判断を更に先送りする考え方はない。

以上